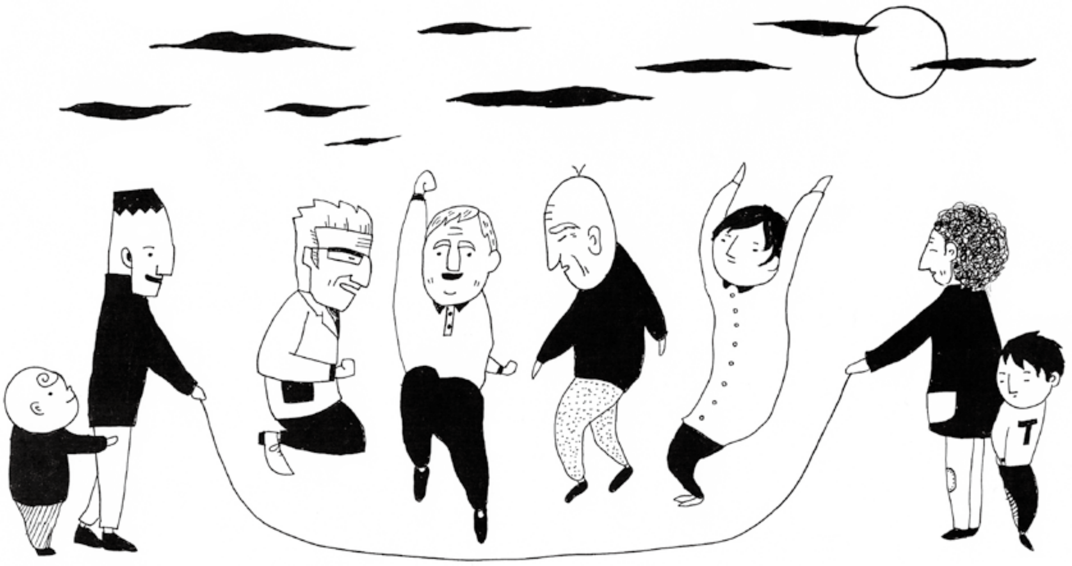
点と線

No. 93

発行人　渋沢　茂
発行所　一般社団法人千葉県社会福祉士会事務局
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港7-1
塚本千葉第５ビル３Ｆ
TEL043-238-2866
FAX043-238-2867
http://www.cswchiba.com/
E-mail：office@cswchiba.com
※　点と線はメール配信でも読めます！



『育（はぐく）む』の語源を知っていますか？一説によると、万葉集から来ているそうです。

～旅人の宿りせむ野に霜降らば吾が子羽ぐくめ天の鶴群（万葉集９）～

「私の子どもが旅をして、野宿しようとした野原に霜が降るようなことがあったならば、天翔ける鶴たちよ、どうかそのあたたかい羽で私の子どもをくるんでください。」

大切に守り育てる、無償の愛が込められ、『羽（は）含（ぐく）む』とも表現されるようです。

「子を育てる」「愛を育てる」「地域を育てる」を育むに置き換えると別の視点が広がりませんか？

私達のまわりでも一歩ずつゆっくりと、子どもや親、地域を育む福祉が広がり始めています。

２《特集》「子ども支援の輪を広げよう」
Ⅰ　子どもの笑顔が輝く地域づくりを
Ⅱ　地域の宝を掘り起こす
Ⅲ　食を通したこどもの居場所
Ⅳ　最前線に潜入
６　開催レポート「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー」
７　三団体合同研修レポート　／　ブレインストーミング
９　社会福祉士の輪
10　地域集会　香取地区 恋する豚研究所
11　おなやみどころ一休
12　事務局便り

特集
子ども支援の輪を広げよう！

『子どもの笑顔が輝く地域づくりを』
松戸市
子ども部　子ども家庭相談課
宮間　恵美子
（みやま　えみこ）

平成二十八年六月三日に「児童福祉法等の一部を改正する法律」が公布されたことを皆さんはご存知でしょうか。昭和二十二年の制定時から見直されることがなかった児童福祉法第一条が改正され、児童は、適切な養育を受け、健やかな成長・発達や自立が図られること等を保障される権利を有することが明確化されました。ようやく子どもが権利の主体となったのです。

児童の福祉は、権利擁護という視点からは、手の届いていないことがたくさんあります。高齢者のようにたくさんのサービスや施設の「選択肢」はありませんし、本人の意志を確認する仕組みも整っていません。いろいろなことが「これから」という状況の中で、格差社会の進展の影響を子どもたちが受けている、というのが現状ではないでしょうか。

六人にひとりの子どもが貧困状態にある、といわれていることについて皆さんは実感をもてるでしょうか？ 市役所内で子どもの貧困対策に取り組み始めたところ、児童分野で働く私たちには、子どもの貧困は切実なものですが、「子どもの貧困にまったく実感がわかない」という声もたくさんいただきます。子どもの声は小さくて届きにくいし、声を上げられずにいるんだな、ということに気づきました。

こうした声をキャッチしようとしてくださっているのが「こども食堂」の方たちです。子ども食堂は、子どもの声を聞き、受け止め、おなかをいっぱいにしてくれる地域の居場所です。食堂の方たちは、当初、子どもたちのために！という強い思いで取り組みを始めたのだと思いますが、次第に、「子どもの困り事は大人（保護者）の困り事」であることや「子どもに支援の手が届かないことは地域の課題」であることに気づかれています。さらに、私たちに「見えていないお子さん」がたくさんいることも感じてくださっています。

たとえば、私たちは、学齢期になるとその支援を「教育」に委ねてきたのでは？ 今、教員は、子どもの学力向上と共に生活支援まで求められ、大変なご苦労をされています。ここは、ソーシャルワーカーの出番ではないでしょうか。千葉県では、スクールソーシャルワーカーの取り組みはまだまだこれからの状況ですが、各市町村で進めていきたいですね。

こども食堂、教員、ＳＳＷ…心強いお仲間ですが、さらに、子育て世代包括支援センターをご存知でしょうか。今回の児童福祉法の改正ではこのセンターの全国展開も推進しています。松戸市では、子育て世代包括支援センターとして「親子すこやかセンター」を市内に三か所設置し、保健師、助産師とともに社会福祉士の正規職員を配置し、妊娠期から子育て期にわたるまでの支援に取り組み始めました。たぶん、社会福祉士がいる子育て包括は全国でも珍しいと思います。

これからも子ども支援の輪を広げ、子どもの力を信じ、子どもの笑顔が輝く地域づくりを！と思います。子どもたちからは、たくさんのパワーをもらえて元気になれます。皆様、どうぞご一緒に！

『地域の宝を掘り起こす』

千葉市教育委員会
学校教育部指導課
スクールソーシャルワーカー
岡﨑　圭子
（おかざき　けいこ）

千葉市のスクールソーシャルワーカー（以下ＳＳＷ）に採用され四年目になります。平成二十五年当初は二名でしたが、二十七年度から四名になりました。体制は〝派遣型〟です。自治体によって拠点校型、単独校型、巡回型などがあります。千葉市では四名が市立の小・中学校（高校・特別支援学校等含む）の校長から申請を受け、相談支援を行っています。主な役割は「問題を抱える子どもが置かれた環境への働きかけ」「学校内外における支援体制の構築」「子ども本人、保護者、教職員への相談支援、情報提供」等です。他にＳＳＷの役割を説明するために、学校内外で研修講師等も行っています。

　派遣型ＳＳＷの特徴は、相談者が学校という点です。子ども本人や保護者ではありません。相談内容は、不登校、学校諸経費の滞納、養育力不足、親の病気、家庭と連絡が取れない等、様々です。一方で子ども・親には〝困り感が無い〟こともしばしばあります。対応した家庭によっては「私はこのままでいい」と、支援機関への相談を提案しても断られることもあるのです。価値観の多様化、プライドなど、理由は様々あると思いますが、家庭の困り感がないと、子どもの学力・生活状況が懸念されつつも、相談支援をすることができません。例えば不登校の子どもに対する支援として千葉市教育委員会では、グループ活動、ライトポート（適応指導教室）、家庭訪問相談員、ＩＴ学習など、個別に合わせた支援を用意しています。各学校も保健室等の別室登校、放課後学習、家庭訪問による学習支援など個別支援を行っています。登校を再開できればよいですが、不登校・引きこもりのまま義務教育を終える子どももいます。基礎学力、社会性が身に付かないまま、その子は中学卒業後、どのような人生を歩むことになるのかと心配になります。

　そのような状況の中、地域連携の必要を切に感じます。学校以外で子どもの居場所が増えれば、多くの可能性が生まれるからです。私は社会福祉士会の基礎研修Ⅲを受講中ですが、「地域における福祉活動」の演習の際、高齢分野で活躍されている受講生の方からこんなご意見を頂きました。「平成二十八年度から新たに地域密着型通所介護事業所が創設されるが、これはとても数が多い。そして地域連携や運営推進会議の開催が課されている。ここが不登校の子どもの居場所になるといいね」というものです。素晴らしいアイディアだと思います。学校以外の安心・安全な居場所で、お年寄りの話し相手などのボランティアを通じて社会性を身につける。もし元教員のお年寄りがいたら勉強を見て貰えないかと、グループ討議で盛り上がりました。もちろん、実現するには多くの課題があることでしょう。しかし、地域には宝のような資源が数多くあると思います。それを掘り起こし、社会参加や学習の場を必要とする不登校の子どもと繋ぐことができればと、心から願っています。

『食を通したこどもの居場所』

かしわっ子食堂あさひ

社会福祉士　枝川　政子
（えだがわ　まさこ）

柏駅西口周辺を含む市街化された柏市の旭町地域に「かしわっ子食堂あさひ」を昨年九月に開設しました。食を通したこどもの居場所として、公的施設である柏市旭町近隣センターを会場に月に一回、第三土曜日をベースに昼食タイムにオープンしています。昼食後には車座になってゲームで遊びます。予約や登録なしの当日来場者待ち。これまで四回実施しました。集まってくるのは小学生が中心です。

開設前、周辺の小学校長に聞きました。「うちの学校では給食費の滞納もありませんし、特に貧困と感じられる子はいません」と。別の小学校の教頭先生からも地域の方々（民生委員含む）からも、この地域で経済的支援を必要とするこどもの実態を聞くことができませんでした。でも、市担当者によるとこの地域の生活保護家庭は増えています。ローンで家計が回らない家庭があることも相談支援機関で把握しました。なかなか表には見えてこないのが相対的貧困状態です。

それでも、この地域から「ひとり親」「孤食」のキーワードは出てきました。貧困家庭でなくても「孤食」は孤独感を増幅させ、こどもの心を豊かにはしてくれません。「孤食」から「共食」へ。「共食」を通して顔の見える地域づくりへとつなげていく、この地域ではそんなこども食堂がいい、と考えました。

開設してみると、こどもたちが続々と集まってきます。まだ四回ですが、リピーターの子も多く、はじめ親子で来ていた子が一人で、兄弟で、友達とで、と来るようになりました。こども三人連れの親子も三組あります。初回こども二十八人、保護者二十五人だったのが第四回ではこども三十八人保護者十五人という状況です。一人で来た子が九人います。小学生が幼児を連れてきます。

リピーターの子達が口をそろえて言います。「美味しいから」と。四人のこどもを持つ母親は、「こどもたちに朝食べさせて洗濯するとすぐにお昼、ここに来るとホッとする」と。学区外から通っている子の母親が「こどもだけで遊べる場がないので、ここに来るのをこどもが楽しみにしています」と。ある母親が言ってくれました。「ここなら安心してこどもだけで行かせられる」と。初めて来たスーツ姿の父親が「こどもにも親にもいいところですね。ぜひ続けてください。また、来ます」と。こどももおとなも憩えるホッとできる場（時間）が必要なのです。

こどもたちのためにできることをみんなで持ち寄ること、それがこどもをより心豊かに成長させる「地域力」になっていくのだと思います。実践を通して地域とのネットワークができると、より「地域力」が強まることになると思います。

地域の社会福祉士の皆さんはぜひ一度見学に来てください。こどもの元気は大人にとっても元気の源になります。こどもの居場所づくりを続けるための知恵と支援をください。インフォーマルサービスに携わるのもいいものです。

社会福祉士の皆さん、携わる分野は児童福祉分野ではなくても、要支援者の生活に寄り添ってみたとき、もしかしたらこどもの問題やこども期の問題が見え隠れするかもしれません。その時に、こどもの居場所が役立つかもしれません。地域にあるこども食堂は多種多様ですが、何かの受け皿になれることもあるでしょう。地域の重要な社会資源です。あなたのネットワークに組み込んでください。顔と顔のつながりが大切です。

最前線に潜入！ ほっとすぺーす・つき を、取材しました。

ＮＰＯ法人ほっとすぺーす・つきでは、「ここに来れば話せる人がいる」をコンセプトとした居場所づくりを目指しており、その事業はこども食堂、学習支援、ひきこもりサポーター訪問事業、家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・さくら」など多岐にわたります。取材班は、学習支援を行う金曜日の夜にほっとすぺーす・つきにお伺いし、吉川将司さんにお話をお聞きしました。吉川さんも不登校の経験をもち、そんななか、理事長から「店番程度でよいから」と声がかかり、スタッフとなりました。

スタッフとなってから自身に変化がありましたか？

私自身のメンタルは変わりません。そんな自分でも受け止めてくれるのがここのよいところ。ミスをしても大きく受け止めてくれます。

最初はみなさんどのように来ますか？

紹介が多いです。一人でいきなり来るにはハードルが高いので、誰かが一緒に来ると安心できます。

やってみてよかったことは？

ある不登校の中学生に関わったときのことです。ここに来ると出席扱いになったので、一年半くらい来て無事に高校進学できました。その後、ここに訪れてくれたとき別人のようにキラキラしていた姿をみたときは嬉しかったですね。

ほっとできる居場所とする秘訣はありますか？

あまり意識していないですが、否定はしないことでしょうね。いろんな価値観を持った人がいますので。「あなたはそう思ったんだね」とありのままを受け入れる姿勢をもつことで自分の気持ちを分かってもらえると思えるのかもしれません。

「あなたはそう思ったんだね」という言葉。いいですね。

不登校の子に限らずですが、自己肯定感を高めてあげるにはやはりあるがままを受け入れることが大事なんだと思います。親御さんは将来を心配して学校に行かせたがるのですが、逆効果だと思います。受け入れて、受け止めてくれたら「自分から何かしよう」とその子は思える。引きこもりの子もいろいろいるけど、親と仲がよい人は外に出てくるのが早い。親と仲がよいと、普段の会話のなかで自己肯定感が高まる。そのうち子どもは「親を助けてあげなきゃ」と思うことができる。親が子どもを全面的に受け止めてあげることが大事だと思います。

不登校の方への訪問もされたんですね。

メンタルフレンドとして不登校の子の自宅へ行きました。その時にはゲームの話をしたり、ゲームで一緒に遊んで過ごしました。私から学校に行こうとは言いませんでしたが、学校に行くようになったと聞いたときは嬉しかったですね。私が中学生のときに趣味に関わってくれるお兄さんがいたら違っていたかもしれないですね。

本日は吉川さんの話をお聞きして、自身の日々の人とのコミュニケーションやソーシャルワークにも参考となるたくさんのおみやげを頂きました。私たち取材班も、自然体で過ごせてほっとできる素敵な場所でした。本日は本当にありがとうございました。

ほっとすぺーす・つき

佐倉市稲荷台 1-17-1　2 階

電話（FAX）：043-235-8008

メール：info@hottospace.com

月～金（祝日除く）

15：00～20：00

開催レポート
『広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー』

総合相談委員会　地域包括部会
平野　香
（ひらの　かおり）

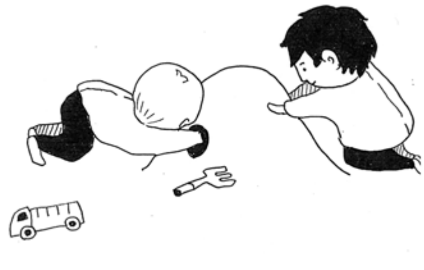
一月十五日（日）、千葉市文化センターアートホールにおいて、『広がれ、子ども食堂の輪！ツアーｉｎちば』が開催されました。このイベントは、全国各地で開催されている『広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー』の千葉県イベントとして開催したものです。千葉県では、社会福祉法人千葉県社会福祉協議会、ＮＰＯ法人ちばこどもおうえんだん、社会福祉士会の三団体の主催により行われました。

昨年六月に社会福祉士会が開催した県民公開講座「子どもたちを取り巻く現状～今、子どもの貧困を考える～」への参加をきっかけに、参加した会員の中で、社会福祉士としていまこの問題にどう向き合うか、社会福祉士会として何ができるかを改めて話し合いました。そして、子どもの問題について会としてより深く、何らかの形で活動をしていきたいという会員の想いが集まり、今回のイベントの実施に至りました。

八月から一月までの間、一か月に一～二回の打ち合わせをしながら企画を練っていきました。このイベントの実施にあたり、より多くの方々に子どもたちのおかれている現状を知ってもらい、身近なこととして捉えてもらいながら、子ども食堂や地域の居場所づくりの意味を一緒に考えてもらいたい、子ども支援にかかわる人たちのつながりづくりのきっかけができないか、と考えました。話し合いを重ね、イベントの内容は、栗林知絵子さん（豊島子どもＷＡＫＵＷＡＫＵネットワーク理事長）の講演、子ども食堂を実際に運営されている方々のパネルディスカッション、地域で子どもの問題にいろいろな形でかかわっている方々のリレートーク、そしてまとめのセッションという内容にまとまりました。

当日は五百名を超える参加者で大盛況。「子ども食堂」イベントにもかかわらず、参加者は子ども分野のみならず、多くの分野の方々が幅広くご参加くださり、あらためて子どもの問題についての関心の高さを実感しました。参加された方々からは、自分の地域でできることから何か始めてみよう、というご意見を多くいただき、子どもの問題について身近なこととして感じていただけたこと、自分の地域で何かできることをしたいという想いを持っていただけたことをうれしく思います。このイベントがきっかけとなって県内各地域で子ども食堂や居場所づくりについての取組が拡がっていくことを確信しました。さらには、このイベントをきっかけに地域全体で、子どもに限らず、子どもや子育て中の親も集える場所、子どもが安心して頼れる大人がいる場所、子どもがいきいきと活躍できる場所など、世代を超え、障がいの有無にかかわらず、子ども支援を中心に助けあえる地域の仕組み、居場所づくりを進めていくことにつながればいいと思っています。

地域みんなでこどもの未来を応援するために。社会福祉士会としても、このイベントをきっかけにさらに子ども支援の取組をしていきたいと考えています。興味がある方はぜひ一緒に活動しませんか。



三団体合同研修レポート
『「地域で生きる」を支援する』

このタイトル、見覚えはありますか？

千葉県ソーシャルワーカー三団体連絡協議会が主催する研修会です。これまでご参加いただいた方も多いと思いますが、あらためて三団体合同研修の紹介と、参加者の声をお届けしたいと思います。

そもそも三団体とは？

千葉県医療社会事業協会、(一社)千葉県精神保健福祉士協会、(一社)千葉県社会福祉士会の３つの団体をいいます。合同研修はご存じの方も多いと思いますが、過去には、県知事へ県立病院ＭＳＷの正規職配置を求める要望書の提出や、千葉県社会福祉協議会へ災害時の協力体制について申し入れをするなどの活動も行いました。

他職種に出会う貴重な機会「合同研修」

異なる職種でもソーシャルワークの共通点はあるはず、という思いから始まった合同研修ですが、『「地域で生きる」を支援する』というタイトルは今年で十回目を迎え、グループワークを取り入れた研修が定番となりました。

研修企画のワーキングチームでは、テーマ選びからグループワークの内容まで、参加者の皆さんが「明日から使える何か」を一つでも持ち帰ってもらえるよう準備をしています。

（企画部会　櫻井　絢子）

「研修に参加しました」

ＣＳＷ会員
大平　由紀子
（おおひら　ゆきこ）
（勤務先：千葉市役所）

今年度の合同研修は、平成二十八年十一月二十六日、『「地域で生きる」を支援する～多文化ソーシャルワークを考える～』と題して、滞日外国人の支援について開催されました。

講師は昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科専任講師の南野奈津子先生。優しい語り口調で解りやすくご講義いただきました。

私は二年前まで介護保険分野で相談援助を生業として仕事をしてきました。高齢者がクライアントだったため、滞日外国人は正直今まであまり縁の無い方たちでした。研修の中でよく出てきた「在留資格」ですら恥ずかしながらよく理解していませんでした。平成二十七年から千葉市で生活保護ケースワーカーの職に就き、外国人の受給者も担当するようになり、一気に身近な援助対象者となったのですが、言葉が通じず苦手としていました。少なからず偏見もあったかもしれません。

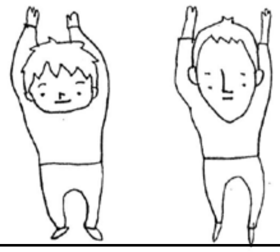
講義を通じて滞日外国人は在留資格があれば、日本の社会保障制度のほとんどが対象となることがわかりました。しかしながら、受けられるべき社会保障制度も行き届いていない現状が講義の中で語られました。オーバーステイや国民健康保険の未加入等により、病気になっても病院に行けない方がたくさんいるというのです。外国人は福祉課題についてハイリスクであり、病気や離婚、失業等、不測の事態が起きればたちまち弱い立場になってしまいます。はたして支援を求められたとき、その方の背景まで想いを巡らし適切な支援ができるだろうかと自問してしまいました。

研修後半のグループワークでは、アフリカ地方から来日した男性患者の支援についてＭＳＷの立場で

考える事例検討を行いました。外国人支援の知識が皆無の私はグループワークに顔がひきつってしまったのですが、前半の講義内容を復習しながら、なんとか参加することができました。各メンバーの職場・職種の違いから、視点が異なる意見が多数出て、支援の糸口を共有でき、有意義な学びの場となりました。グループワークでよくある発表形式ではなかったので、気負うことなく和やかに議論できたことにも南野先生の優しさを感じました。

折しも世界では難民、移民問題が連日報道されています。合法に国を行き来できない人たちが多く存在し、難民の受け入れに苦慮している国があります。安寧を求めて逃げてくる途中で命を落とす難民のニュースが後を絶ちません。私たちソーシャルワーカーは、国籍に関係なく常に人権や多文化共生を意識しながら支援しなければなりません。今回の研修では様々な生活課題を抱えた滞日外国人の存在を改めて認識し、支援方法を学んでいく必要性を感じました。

三団体の合同研修は初めて参加しましたが、今後も自己研鑽のため積極的に参加させていただきます。南野先生、運営スタッフの皆様ありがとうございました。



ブレインストーミング

まだ仕事が終わらないとの連絡があり、編集会議に遅れているS氏。
あらかた次回の点と線の内容も固まり、みなでたい焼きをほおばっていたその時でした。
プルル…プルル…とS氏からの電話。

T　はい、もしもし？ あぁうんうん。Iくん？ いるよ～、かわるね。Iくん、Sさんから。

I　俺ですか？ わかりました。もしもし？

S　ゲフン、あぁ、Iくんお疲れ。

I　お疲れ様です。どうしました？

S　いやね、今実は仕事が終わってこれから編集会議の場所に行こうと思うんだけどね？ これからそこまで向かうと三～四十分で着くと思うんだ。でも時間も時間でしょ？ もし会議の進捗状況によってはさ、これから場所を変えてさ、ほら例えば前回のサイゼとかね？ 三、四十分て言ったらみんなにとって相当の時間じゃない？ そこまでの移動時間に充てられるじゃない？ みんなのさ…

I　（…も、モジモジしながら気を使ってる！）

と、いう訳でこんな可愛らしい側面を持った集団、それが広報部会であります。皆さまにも是非ご参加いただき胸キュンしてほしい！ 我々は呆れるほど待っておるぞ！

社会福祉士のわ

中核地域生活支援センター
いちはら福祉ネット
木村　由起子
（きむら　ゆきこ）

自己紹介

　私は、福祉とは全く関係ない職に就いていました。よく「なぜ社会福祉士をとったの?」と聞かれるのですが、大きなきっかけがあったわけでなく、今までの色々な経験の積み重ねから、社会福祉士の資格を取得しようと思いました。勉強をしていくと、相談者の悩みに対して、社会資源などを活用し、かつ、相談者のエンパワーメントを高めていくという仕事に興味を持ち、相談支援をしたい思いが強くなったことを覚えています。

　資格取得後、高齢分野で福祉の仕事をすることはできましたが、ほとんど相談支援業務を行うことができず四年が経過するころ、社会福祉士会で知り合えた方の紹介で今の職に就くことができました。

大切にしたいと感じていること

　私が所属している中核地域生活支援センターは子ども・障害・高齢など分野を問わず、福祉全般にわたる相談に対応しています。今の仕事に就いてもうすぐ一年が経ちますが、まだまだ半人前で、上司、先輩の力を借りて相談対応をしている状態です。支援をしていく中で「相談者の問題を整理する」「相談者や関係者と課題を共有する」といった基本姿勢や面接技法等、常に意識しなくてはならないことが沢山ありました。幅広く相談に対応していく必要があるので、社会資源に関する知識だけでなく、病気や関わり方等に対する知識も必要で、もっと勉強しなくてはと思う毎日です。とりあえず資格を取得するためにという勉強をしてきてしまったツケが今、回ってきていると感じて反省しています。しかも、待ったなしの状態で相談を受けていかなくてはならないので、一人前になれていないことに焦ってしまうことも多くあります。

　そのような毎日ですが、相談員として「相手を受け止めること」を大切にしていきたいと考えています。相談者は、不安や、支援者に対する不信感を抱えてくる人だけでなく、相談者本人が大変な状況であることを自覚していない人等、様々な問題を背景に抱えながら来るからこそ、まずはその人の考えている事をしっかり受け止めるところから行っていきたいと考えています。当たり前の事だと思いますが、私が社会福祉士を目指したときの理想の姿であったからです。私自身も落ち込んだ時、私の言っていることが正しいか間違いかではなく、一度そう感じた自分の気持ちを受け止めてほしいけれど、受け止めてもらえない状況が辛く、ひどく落ち込んだ時期がありました。だからこそ、非力な自分がまず出来る事からしっかりと行っていきたいと考えています。

　「相手を受け止める」ところからはじめて、相談者と一緒に課題整理を行い、表出されていないニーズも見つけて、そこから相談者のエンパワーメントを高められるような支援につなげていけたらと思っています。そのためにもまず自分が「ぶれない」事、そしてもっと知識・技術を身に付けて、経験を重ねていきたいと思っています。

地域集会

つながるネットワーク

香取・海匝地区

報告者
社会福祉法人福祉楽団
保立　真人
（ほたて　まさと）

今回、香取・海匝地域にて活動されている社会福祉士の先輩方とのご縁があり、香取・海匝地域の世話人をさせていただくことになった。

平成二十九年一月十三日（金）今年度第一回目となる地域集会は、成田空港から程近く、山と畑と田が広がる千葉県の北総地域に位置する香取市に建物を構える「恋する豚研究所」を会場に「社会福祉法人 福祉楽団」の取り組みの一部を理事長である飯田大輔氏より説明していただいた。福祉楽団では「福祉×農業×芸術（アート）」を意識し、地域とともに新たな仕組み作りに挑戦している。「恋する豚研究所」という名前や商品デザイン・建物にも表れているように「福祉」と「農業」と「芸術」がどのように関係しあい、混ざり合い、新たな価値を産み出そうとしているのかについて、これまでの成り立ちや、これからの展望なども語っていただいた。勉強会に入る前にまず「しゃぶしゃぶ定食」と「ハムとソーセージの盛り合わせ」がテーブルに並べられた。スライスされた豚肉やハム・ソーセージの加工や販売はもちろんだが、店舗運営や建物の美観維持、清掃についても障害者の就労がサービスを支えているとのこと。農場で餌からこだわって育てた豚肉と、この地域で取れたお米や新鮮な野菜、建物の雰囲気や提供された食べ物を改めて見つめると「福祉」「農業」「芸術」の要素が密接に関係しあって成り立っていることを感じさせてくれた。飯田氏は今後の事業展開として、オランダの取り組みを参考にした高齢者や障害者のケアを農業や林業で行う、日本版ケアファーム（農場とデイサービスとの融合）構想の実現に挑戦したいと話していた。オランダのケアファームは福祉政策ではなく、農家の人材不足解消の為の農業政策として実現されている。農家もケアを受ける者もどちらにもメリットが生まれている。

参加者はそれぞれ興味を持った点について質問を交わしていた。参加者の意見・感想を伺い「福祉」「農業」「地域」が抱える課題を解決するためには互いの特性を理解し活かし合うことが解決への糸口になると感じた。元々「農業」や「福祉」も人間の生活が中心にあり、その生活の周辺にある「地域」との密接なつながりの中で発展・変化していった。香取・海匝地域という畜産業や農業が盛んな地域で「農業」と「福祉」が結びつくのはむしろ自然なことなのかもしれない。

これから福祉業界の中で一つのテーマになってくるであろう「共生型社会」の理解と実現に向けた取り組み事例（ローカルモデル）が全国各地で求められていく。ソーシャルワーカーとして私達に求められるアクションは、多様な時代に合った新しい価値や仕組みを社会の中にどう産み出せるか。新たな時代の準備のためには既存の枠から少しはみ出る勇気と行動力を持つことが必要なのかもしれない。

おなやみどころ

一休

デイサービスの相談員として、ご利用者様と日々関わらせていただいております。この仕事はとてもやりがいを感じているのですが、時折、ケアスタッフとの間で頭を悩ませていることがあります。当事業所では、比較的に要介護度の低い方が多いのですが、なかには要介護度の高い方や認知症の方もいらっしゃいます。個人的には、要介護度の高い方々に対して、相談員としての役割を最大限に発揮したいと感じているのですが、事業所での話合いの時に現場のケアスタッフからは「この方はもうデイサービスで対応できるレベルではない」とか「徘徊があるからうちでは無理」と言われ、なかなか折り合いがつかず、今後も継続利用していただくことへの理解を得ることが難しい時があります。このような場合、どのようにすれば協力を得られるでしょうか？

お返事

社会福祉法人　沼風会
サービス管理者
沼風苑指定居宅介護支援事業所
介護支援専門員　併任
佐久間　尚実
（さくま　なおみ）

あなたの目指すものが組織の基本理念に適うものであり、要介護度の高い方だけでなくその他の利用者も満足でき、さらには自分たちスタッフも満足できるものだと思えるなら、時間をかけてでも挑戦する価値があると思います。

後ろ向きな意見は大きく聞こえますが、その中にかすかに「やってみたい」「出来るかも」と言う声や「条件付きで賛成」という声も隠れていることがあります。その声を拾い、仲間を少しずつ増やし、具体的に取り組めることから始めていくのも一つの方法でしょう。批判する人、反対する人を排除するのではなく、前向きに現状を変えたいと思う仲間を増やすことでジワジワと土壌改良を行えると良いかも知れません。

人類学者のマーガレット・ミード曰く、「思慮があり、行動力のある人々は、たとえ少数でも世界を変えられる。――それを決して疑ってはならない。実際、それだけがこれまで世界を変えてきたのだから。」

何度失敗してもへこたれず、（その度に後ろ向きな人たちからは批判されるでしょうが・・・）明確なヴィジョンを持って、Ｏｎ／Ｏｆｆ自在の明るさ調節機能付きのやる気スイッチを駆使して、息の長い取り組みが出来ますように。

【引用文献】
『誰が世界を変えるのか～ソーシャルイノベーションはここから始まる～』
フランシス・ウェストリー他著
東出顕子訳　英治出版　二〇〇八年

事務局便り

早いものでもう３月、みなさまのお手元に届くころ、桜は花開いているでしょうか。
年度末や年度初めの準備で何かと気忙しい方も多いことと思います。くれぐれもご自愛ください。
これからも、素敵な新しい出会いがみなさまにありますことを祈念いたします。

研　修　等　・　行　事　の　お　知　ら　せ

○　４月以降、順次開催研修の申し込み案内をホームページに掲載いたします。
又、研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載致します。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：http://www.cswchiba.com/

【以下、新年度研修予定】

- 研修委員会-基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、実習指導者養成研修他
- 権利擁護センターぱあとなあ千葉運営委員会-必須登録員研修、レベルアップ研修、ぱあとなあ千葉さぽーと、成年後見活用講座、テーマ別弁護士との事例検討会
成年後見人養成研修他
- 司法福祉委員会-刑事司法ソーシャルワーカー養成講座（基礎編）、
刑事司法ソーシャルワーカー養成講座（応用編）

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
小野　恭太	千葉市	株式会社ベストサポート	橋本　諭	柏市	社会福祉法人　彩会
飯村　相楽	松戸市	-	鶴岡　亨司	市原市	鶴岡住宅設備株式会社
古澤　肇	春日部市		持丸　眞弓	千葉市	学校法人滋慶学園 東京福祉専門学校

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

平成 28 年 12 月末現在の会員数

正会員　1,417 名、　準会員　４名、　賛助会員　２名　　　合計　1,423 名

千葉県社会福祉士会には、
「各地域で社会福祉士が交流できる地域集会」「情報交換ができる部会」「研修等の企画について語り合う部会」「点と線を作成している広報部会」等、様々なネットワークづくりの場があります。
社会福祉士として新たなつながりを求めるとき、事務局へ相談してみてください。
（TEL）０４３－２３８－２８６６